

柳津町森林利活用ビジョン視察研修@長野県箕輪町 概要報告

1. 行程と概要

1) 令和6年8月6日(火)15:00~17:00@箕輪町役場

長野県箕輪町役場において(写真1)、浦野副町長から歓迎のあいさつを受けた後、小笠原係長らから町の概況、中村松島区長から区による森林管理、信州大学三木助教からビジョン策定の留意点について説明を受けた。その後、同町ビジョン策定を受託した合同会社ちいもり杉本社員(写真2)から策定の背景や具体的な進め方について説明を受け、出席者全員による意見交換会が行われた。

2) 令和6年8月7日(水)8:30~12:00

午前中、箕輪町役場(写真3)において、小笠原係長(写真4)からビジョン策定後の動き、毎年の進行管理について説明を受けた。また、岡田氏(林業従事者、町議員)から検討会での発言内容や木材市況等の説明を受け、意見交換会が行われた。その後、大芝公園(写真5)に移動し、森林調査を行った。同公園内には、カラマツ、アカマツ、広葉樹の大木が生い茂り(写真5)、散策道は非常によく管理されており、多くの町民が散歩やランニングなどを行っていた。本公園は保安林に指定され、公園内には南箕輪村観光森林課があり(写真6)、通常業務のほか森林管理やイベント開催などが行われているとのこと。参加した会津農林高校生も自然の中で積極的に発言していた(写真8)。

2. 視察内容

(1) 箕輪町の紹介(町役場より)【資料2-2(2)】

- ・町は製造業を主たる産業とし、農業は酪農・果樹などもある。林業従事者はほとんどいない。伊那市、南箕輪村、辰野町などに隣接しており、生活圏は重なる。JR飯田線の駅が3駅通っている。中央自動車道が町を南北に走り、インターチェンジが町内に1つある。
- ・森林面積は町面積の約6割ある。人工林率は67%で、主な樹種はカラマツ・アカマツ。傾斜が30度以上の急峻な森が多い。
- ・箕輪町森林ビジョンをより多くの町民に知っていただくため、策定翌年度の7月にキックオフイベント「これからの箕輪の森づくり」を開催し、多くの町民に参加いただいた。そのときの様子は町のホームページに掲載されているが、大変有意義なイベントであった。箕輪町の森林を知っていただくため、ドローンを使って町内の森林を撮影した。
- ・森林のうち国有林はわずかであり、財産区有林が大きな面積を占める。箕輪町内には13の財産区、生産森林組合(入会林野を近代化させて協業組合にしたもの)が2組合ある。

※財産区有林とは、町村合併前の旧村が持っていた山を、合併後もその集団で管理できる仕組みで公有財産にあたる。現在の集落や地区が持っているが、共有林とは異なり固定資産税がかからないが、市町村長のコントロール下に置かれることもある。

(2) 箕輪町森林ビジョンについて（町役場・ちいもり杉本由起氏・三木敦朗信州大助教）
【資料2-2(3)、2-2(4)、及び2-2(5)】

- ・R4に町の森林の現況調査・分析を行い、また関係者ヒアリングと1,000人を対象に住民アンケートを取った。（アンケートの回答者のうち森林所有者は10%のみ。森と関わりを持ちたい人が8割。）
- ・R5に委員会を4回開催して森林ビジョンを作成した。委員会の間には委員ヒアリング、また現地検討会も行った。森に期待すること、役割、課題を検討した。
- ・R6(今年度)は森林ビジョンについて町民向けに説明会を開き、地区森林ビジョン策定に取り組んでいる。実際の森の利用や管理の実行計画を立てていく。全15地区あり、1年間に3地区ずつビジョンを策定する計画。
- ・箕輪町森林ビジョンのポイントは、「答え」ではなく「考え方」を示すものであること、本編を簡潔にまとめることで多くの町民に森林ビジョンのイメージを共有してもらうこと、町民一人ひとりが主役となって町の森林について考えること。
- ・森林ビジョン検討委員長の三木先生によると、箕輪町の森林ビジョン策定は他市町村と比べて、①短期間でのビジョン策定（コンサルは手間がかかったと思うが、委員からは丁寧に意見を聞いた）、②台本のない会議だった、③箕輪町の森林に何を求めるかを一から考えた（町民が何を求めるかが第一）。
- ・ビジョン策定の方針として、「森林からお金を生み出す」ことが第一目的なのか、「町の人口を維持する」ことが目的・優先事項なのかによって、内容は変わってくる。
- ・町民からの意見を吸い上げる方法として、自治体内の別の計画策定の委員会で出た意見を拾い上げて、森林に絡めてできそうなことはやっていくことにした。
- ・市町村森林整備計画との関係性としては、伐採届の判断基準にはもちろん使うが、これから地区ビジョンを策定する中で方針が変わる林分があれば、市町村森林整備計画のほうを変えて柔軟に対応していきたい。
- ・町の林業。箕輪町内には原木（丸太）市場がなく、製材所もない。隣の伊那市に長野県森林組合連合会の市場があり、そこへ持っていくことが多い。伊那市内は昔からの製材所が2つあり、近いのでそこへも出ている。全体としては地域外に多くの原木が出てしまっているため、域内加工（隣接する地域エリア内での加工）が課題。
- ・業者によってはバイオマス発電所やチップ工場への原木の直販も行っている。土場で直接、原木を引き渡す。
- ・伐採後に植える樹種はカラマツが多い。広葉樹へ誘導する場合もある。（アカマツの樹種転換では植林が義務付けられている。）

(3) 松島区（松島財産区、2,704世帯、R6地区森林ビジョン取り組み地区）：

区長 中村和年氏

- ・財産区で300ha持っているが、県行造林などの分収林（土地を他者に貸して造林してもらい、伐採収益を造林者と土地所有者で分け合う）が約7割を占めるため、直営林は77haのみ。分収契約がもうすぐ終了して立木のまま返してもらうため、管理すべき直営林が増える。そのようなタイミングだったので、今後の財産区有林の管理を考えるために、地区森林ビジョン策定に取り組むことになった。
- ・財産区会議員（山の役員）は2年任期で山の境界確認をしてきたが、2年ごとに替わる役員が長期的なことを考えることは難しい。
- ・地区森林ビジョン策定を通して、利益の出る山はどのくらいあるのかなど検証して、区の住民と今後の方針を考えたい。

(4) 林業事業者 岡田建二郎氏（箕輪町富田区・町議会議員・森林ビジョン検討委員）

- ・町内の富田区という小さい地区（136世帯）で、個人有林を対象に15年前くらいに施業を請け負い始めた。補助金申請するときは経営計画も立てる。同時期から富田区の財産区有林の経営計画も立てて、施業を請け負っている。区民が総出で山人足の作業をしていたが、区民ができない作業をフォローする形で私が請け負っている。財産区と個人の山を合わせて300haくらいの経営計画を立てている。
- ・林業事業者として検討会委員に呼ばれていたので、次の3つを意見として伝えた。
 - ①林業の担い手がこの町にいない。事業体をどう育成するかを加えてほしい。
隣接する自治体には地域おこし協力隊として林業分野で活躍する人を集めたり、町有林があるので、仕事はある。施業、経営、一緒にアドバイスしたり課題を共有できる業者を確保すれば、他所からの人でも仕事として確保できると思う。地域内で森林に色々な立場から関わる人による協議会を設けていかないと、継続した森林管理は難しいだろう。
 - ②木材利用。行政が作るのだから、公共建築物で行政が率先して木材を使うことを入れてほしい。
 - ③その地域に合った作業道の施工を盛り込めないか。土砂災害は道から崩れることがほとんどなのだが、地域の土木業者が道を作ることが多かったが、山の道の作り方ではないので、水を逃せるように考慮した道を作れてはいなかった。山の特性に合った作業道を作らないと、「災害に強い森林」が達成できないのではという心配。
- ・検討会に参加して、私たちのような林業現場の人と、一般の地域住民との中間にいる森を楽しみたい人が間に入らないと、森との関わりしろ、地域の人が森の現状を理解する機会が作れないと感じた。その中間部分にあたる人をいかに確保するかがカギ。

(5) 信州大芝高原（南箕輪村、箕輪町役場から車で10分）

- ・大芝高原（写真4）は南箕輪村にあるアカマツを中心とする平地林。箕輪町や伊那市から車で数分～10分の距離で、箕輪町を始めとする隣接自治体からの利用者も多い。マレット

トゴルフ場、アスレチック、陸上競技場や野球場、温泉、キャンプ場・コテージ、農産物直売所など様々な施設がある。森林セラピー基地にも認定されている。もとは秣場・入会地だったが、植林するようになり用材収入は村に貢献した。林業衰退後は環境林整備をしてきている。

- ・杉本健輔氏（合同会社ちいもり）は南箕輪村の地域おこし協力隊として、大芝高原みんなのもりの森林管理にも携わっている。
 - ・以前から混交林への誘導をしたいようだが、せっかく生えていた小さな広葉樹まで下刈りで全部刈ってしまって混交林になりにくい環境を作ってしまったので、理由を説明して広葉樹は残して刈るようにした（写真9）。
 - ・マツ枯れがこの数年で入ってきているので、被害木は伐採しなければならない（写真10）。対策が追い付いていない状況。
- *柳津町からの視察団はみんなのもりのセラピーロードを歩き、心地よい森の空間を楽しみ、会話も弾んでいた（写真8）。このような気持ちの良い森があると、地域住民も散歩などに活用して森へ足を運ぶ機会が増えるのでは（写真11、12）。

3. まとめ

箕輪町と本町は、人口、産業構成、森林資源、木材流通、林業事業体数が異なり、箕輪町の取組みをそのまま柳津町に当てはめるのは難しい。しかし、町民から意見の取り方、意見のビジョンへの反映の方法、検討会の進め方、キック・オフイベントの開催など、本町のビジョンづくりにおいて、極めて参考となる有益な情報を多く得ることができた。

さらに、箕輪町から「これをきっかけに柳津町との交流を深めていきたい」との意見が出された。両町のさらなる発展を期す上でも、大変有意義な研修であったと考えられる。